

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	465 救急医療事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本 施策	02 身近なところで高度な医療を提供する	目	01	保健衛生総務費
		細目	242	地域医療対策事業
		細々目	51	救急医療事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	131000		担当者氏名
	名称	健康福祉部地域医療対策課		
		連絡先	22 - 9705 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市民	※対象件数
成果(どうする)	2次救急医療体制に空白日を生じさせない	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
関連事業		
H23 事業 内容	伊賀地域における二次救急医療を維持するため、市内2病院と名張市立病院の3病院で時間外の救急医療体制を確保する。	
社会情勢の 変化等	医師の過重労働の軽減のため、一次・二次医療の役割分担を整備し、休日・夜間の応急診療所を開設し、医療体制を確立した。さらに平成20年4月から、名張市立病院を入れた3病院で伊賀地域の二次救急医療体制を確立。加えて21年度より3病院での二次救急医療体制を維持継続するため、民間病院への支援が新規に発生。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[ ]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
伊賀市救急相談ダイヤル24広報による周知	目標	回	3	2	2	2
	実績		3	2		
	目標					
	実績					

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値		
				H22	H23	H24	H25	
伊賀市救急相談ダイヤル24相談件数		深夜帯等における軽症者の対応が可能となる	件数	目標	2,700	4,200	5,400	5,400
				実績	3,691	5,633		
				目標				
				実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	135,598	83,629	86,396	86,396
	県支出金	2,125	2,225	2,225	2,225
	地方債				
	その他	61,176	24,591	25,430	25,430
	一般財源	72,297	56,813	58,741	58,741
事業投入人件費(B)		1.0人 7,200	1.0人 7,200	1.0人 7,200	1.0人 7,200
フルコスト(A)+(B)		142,798	90,829	93,596	93,596

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業	
	【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 救急医療の受診。平成23年中伊賀市消防による救急搬送件数: 4,783件	○
	【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
	【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無	
	【達2】【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	二次救急医療体制の確保に向けて、関係機関との協議を進める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 継続可能な二次救急医療体制の構築に向けて、二次救急実施病院の院長、事務長、両市の健康福祉部長による検討会を実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	田中 佳隆
事業の方向性	【方向性】 拡大・充実 【理由】 継続可能な二次救急医療体制を実現していくためには、上野総合市民病院をはじめとする3病院で医師を確保していくことが重要であるが、それに併せて二次救急病院の負担を軽減する必要がある。
現時点における課題、その他	二次救急医療体制の確保。 消防本部による二次救急担当病院への搬送者のうち半数以上が軽症者である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	二次救急医療体制の確保に向けて、関係機関との協議を進める。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	466 応急診療所管理運営事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本 施策	02 身近なところで高度な医療を提供する	目	01	保健衛生総務費
		細目	242	地域医療対策事業
		細々目	52	応急診療所管理運営事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード 131000 名称 健康福祉部地域医療対策課	担当者氏名	田中 佳隆	連絡先 22 - 9705 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市民	※対象件数
成果(どうする)	休日・夜間において、症状に応じて応急的な診療が受けられる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 18 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	運営時間 【月曜日～土曜日】午後8時～午後11時 【日曜日、祝日】午前9時～正午、午後2時～午後5時、午後8時～午後11時	
社会情勢の 変化等	医師の過重労働の軽減のため、一次・二次医療の役割分担を整備し、休日・夜間の応急診療所を開設し、医療体制を確立した。さらに平成20年4月から、名張市立病院を入れた3病院で伊賀地域の二次救急医療体制を確立。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[ ]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
応急診療所開設時間	時間	時間	目標	1,521	目標	1,524
			実績	1,521	実績	1,515
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
受診者数	受診者数	応急的な診療であるので日常から「かかりつけ医」を持つことを促す	人	目標	7,792	目標	7,800
				実績	7,837	実績	8,281
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	Aの財源内訳	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)		
直接事業費計(A)			77,479		78,828		78,828		78,828
Aの財源内訳	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債								
	その他		66,790		62,634		62,634		62,634
一般財源		0	10,689		16,194		16,194		16,194
事業投入人件費(B)		人	0	1.0人	7,200	1.0人	7,200	1.0人	7,200
フルコスト(A)+(B)		0	84,679		86,028		86,028		86,028

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業	
	【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○
	【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 開業医等の診療時間外での診療であり、その間の市民ニーズは高い。1日あたり約22人受診 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
	【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無	
	【達3】予算の繰越がある場合、繰越の種別	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
昨年度の取組状況	【状況】 【詳細】

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	田中 佳隆
事業の方向性	【方向性】 拡大・充実 【理由】
現時点における課題、その他	二次救急医療機関の負担軽減のため、一次、二次救急の棲み分けは重要であり、そのため一次救急を担う応急診療所の継続的な運営は必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	伊賀市応急診療所は、応急的な処置を目的とする一次救急であるにもかかわらず、コンビニ受診的に利用される受診者が見受けられる。 応急診療所を含めた救急の適正利用を図るため、市広報等で定期的に市民周知を行う。